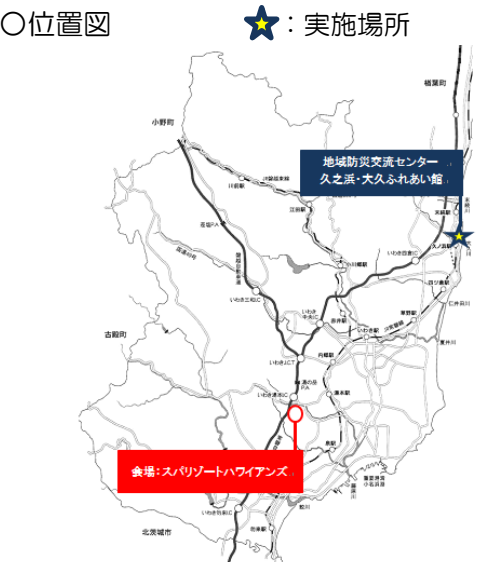


<p>提 案 名</p>	<p>A-2 被災地視察と防災への取組</p>		<p>○位置図 </p>
<p>テ ー マ</p>	<p>① 防災</p>		
<p>対 象</p>	<p>首脳夫妻</p>		
<p>実 施 場 所</p>	<p>いわき市地域防災交流センター 久之浜・大久ふれあい館</p>		
<p>会場からの 移 動 手 段</p>	<p>車</p>		
<p>会場からの 所 要 時 間</p>	<p>移動時間：片道約 50 分 ※視察等の時間は弾力的に設定可能</p>		
<p>提 案 趣 旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●久之浜地区は、地震の後、最大7M の津波に襲われるとともに、直後に発生した火災が翌日まで燃え続け、街の大部分が消滅した地域である。 ●平成 28 年 3 月にオープンした「いわき市地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館」は、地域住民が緊急避難できる津波避難ビルであるとともに、館内の防災まちづくり資料室は震災時の状況を残す資料館として、また防災知識の普及を図るための教育施設としての機能を有している。津波被災地区において、その被害の甚大さや防災関連の取組を視察することで、地球温暖化による海水面の上昇や自然災害などにより海に関わる災害に直面しているサミット参加国の防災・減災の取組への一助となると期待できる。 ●また、本市沿岸部の復興状況や被災地で暮らす人々など、復興の姿を発信することで、原子力災害の世界的な風評払拭が期待できる。 		
<p>実 施 内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●津波被災地区において、津波の被害状況の視察とともに、防災緑地や防潮堤、防災無線などの防災関連取組を視察。(時間が許せば、語り部から津波の恐ろしさを伝えてもらうことなども可能。) ●復興公営住宅など、津波被災地区の復興の姿の視察。 		
<p>期待できる 効 果</p>	<p>島 嶼 国</p>	<p>防災設備の整備をはじめとした防災・減災の取組の一助としていただく。</p>	
	<p>被 災 地</p>	<p>防災・復興の取組を視察いただくことで、本市の復興の姿や元気を発信できる。</p>	
<p>備 考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●隣接する「浜風きらら」は、東日本大震災により被災した町の復興と、地域の利便性向上のため平成 29 年 4 月にオープンした商業施設であり、視察可能。 ●久之浜・大久ふれあい館 2 階の防災まちづくり資料室は狭小なため、配偶者のみを対象としたプログラムに変更することも考えられる。その他、震災当時の様子を紹介する視察先としては、いわき・ら・ら・ミュウ 2 階のライブいわきミュウじあむも挙げられる。 ●さらに、屋上からは津波と火災により消失した町が再生されている様子や、建設中の防潮堤などが一望できる。(但し、屋上へのアプローチは階段のみ。) ●子どもたちをはじめ、市民が最大限関わられるよう関係機関・団体と調整を図る。 		



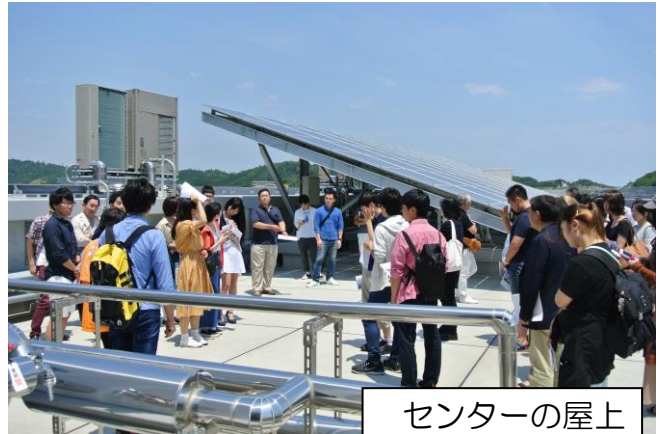
震災当時の様子



震災当時の様子



市地域防災交流センター（外観）



センターの屋上



研修室（3階）



防災まちづくり資料室（2階）



防災まちづくり資料室（2階）